

サケ目 サケ科

[図録 13-F]

# オシヨロコマ

*Salvelinus malma krascheninnikovii* Taranetz, 1933

原記載: Taranetz, A. C. R. (Doklady) Acad. Sci. URSS (N. S.), (2): 83

英名: Southern Dolly Varden

自然繁殖している個体群は、北海道の高牧村千走川、新冠町新冠川、中札内村十勝川支流札内川を隔ち北緯42度37分付近を南限として分布。1970年～2001年の間に北海道各地の約90水系で生息が確認されている。国外での分布は沿海州、サハリン、オホーツク海南部とされている。低水温を好み、河川の上流域で密度が高い。降海型と河川残留型のほか、滝の上などに閉じ込められた陸封型がいる。分布の南限より南の水系でも、海から溯上したと推定される個体がまれに捕獲され、放流起源の個体が再生産していると思われる河川もある。繁殖開始年齢はオスは1歳、メスは2歳(体長12cm程度)。ふつう最大全長は30cm前後、北海道での最大の記録は、46.5cmの降海型。1990年代には多くの河川で個体数が減少し、絶滅したと推定された支流もある。他方、森林伐採・林道造成が行われていない、あるいは河畔林が再生した所では、個体数が増加していると推定される河川が数ヶ所ある。なお、*Salvelinus malma* は分布の西端付近では、北方系の*S. m. malma*、南方系の*S. m. krascheninnikovii*、および湖沼適応型の*S. m. miyabei*の3亜種に分類されている。

## 参考文献

- Berg, L. G., 1946. Freshwater Fishes of the U. S. S. R. and Adjacent Countries, Vol.1. Zool. Inst. Acad. Sci. U. S. S. R., 466pp.  
 Cavender, T. M. and S. K. Muris, 1989. Cytotaxonomy and interrelationships of Pacific basin *Salvelinus*. In: H. Kawana, F. Yamazaki and D. L. U. Noakes (eds.), Biology of charrs and masu salmon. Physiol. Ecol. Jpn. Spec. Vol. 1., pp. 49-68.  
 石城謙吾, 1984. イワナの謎を辿る. 岩波書店, 東京 216pp.  
 小宮山英重, 1981. 知床半島の河川の淡水魚類とその特徴. 知床半島自然生態系総合調査報告書, pp. 4-19. 北海道生活環境部自然保護課.  
 西藤謙二・杉野一, 1984. 釧路川に遡上したオシヨロコマについて. 水産庁研究報告, (39): 123-126.  
 田中勇雄・折谷康二・坂本清幸・藍見達也, 1994. オシヨロコマ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(1), pp. 414-423. 水産庁研究部魚類保全課, 東京.  
 谷口鏡利・岸大星・河川一, 2002. 知床半島東西両岸の3河川における流川性サケ科魚類個体群の現状—特に河川工作物の影響を中心に—. 知床博物館研究報告, (23): 37-46.  
 Taranetz, A., 1933. Some new freshwater fishes from the Far Eastern Kral. C. R. (Doklady) Acad. Sci. URSS (N. S.), (2): 83-85

執筆: 小宮山英重 (野生魚研究所)

サケ目 サケ科

日本固有亜種

[図録 14-A]

# ビワマス

*Oncorhynchus masou* subsp.

英名: Biwa salmo

本記載ではあるが、*Oncorhynchus masou*の1亜種で、琵琶湖水系のみ分布する日本固有亜種。全長40～50cm。河川生活期の幼魚では体側にパーマーク、小黑点、および淡い朱点がある。湖中生活期の成魚では体全体が銀白色を呈し、パーマークや朱点は消失する。背面は緑色がかっており、背、背鰭、尾鰭には小黑点が散在する。主に北湖に生息するが、近年河川残留型の存在が示唆されている。サツキマス(*O. m. ishikawae*)に類似し、河川生活期のもの区別はきわめて難しい。ただし、湖中生活期の成魚では、体側の朱点が消失すること、眼径が大きく吻部が丸いことなどで判別が可能である。産卵期は10～11月。昭和40年代には40～50tあった漁獲量が、近年では20～30t前後で推移している。本亜種の産卵場である琵琶湖流入河川には堰堤やダムが設置されていて、産卵魚の移動を妨げているとともに、また降海型のみ的人工採卵、孵化放流が行われていることから、本亜種の本来的な遺伝的特性が失われる可能性がある。水産庁のデータベースでは希少種とされている。

## 参考文献

- Kimura, S., 1990. On the type specimens of *Salmo masou*, *Oncorhynchus ishikawae* and *O. rhodurus*. Bull. Instit. Zool. Acad. Sin., 29(3), Suppl.: 1-16.  
 西川哲夫, 1989. ビワマス. 川部部誌・水野喜彦(編), 日本の淡水魚, pp. 180-185. 山と溪谷社, 東京.  
 森原雅之, 1994. ビワマス. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(1), pp. 424-430. 水産庁研究部漁場保全課, 東京.  
 森原雅之・井口恵一郎, 1994. ビワマスにおける河川残留型成熟雄の存在. 魚類学雑誌, 40(4): 495-497.  
 Oshawa, T. and Ozaki, T., 1990. Genetic relationship among three subspecies of *Oncorhynchus masou* determined by mitochondrial DNA sequence analysis. Zool. Sci., 13: 189-199.

執筆: 前畑政徳 (滋賀県立琵琶湖博物館)